

2019年秋学期の全時間訓練のための
メッセージアウトライン

主題：
クリスチャン生活

メッセージ 13
父の家の中で相互内在の生活を生きる

聖書：ヨハネ14:1-6, 20, 15:4-5, ガラテヤ2:20, コロサイ1:2, 17

I. わたしたちは神聖な三一の永遠の同時同存と相互内在の明確な靈的理解を持つ必要が
あります——マタイ28:19, IIコリント13:14, エペソ3:14-17:

A. 神聖な三一の三者は、永遠に同時同存します:

1. 父は神であり (Iペテロ1:2, エペソ1:17)、子は神であり (ヘブル1:8, ヨハネ1:1, ローマ9:5)、その靈は神です (使徒5:3-4)。
2. 父は永遠であり (イザヤ9:6)、子は永遠であり (ヘブル1:12, 7:3)、その靈は永遠です (9:14)。
3. 父、子、その靈は、永遠から永遠まで、同時同存します——ヨハネ14:16-17, エペソ3:14-17, IIコリント13:14。

B. 神聖な三一の三は永遠に相互内在しています:

1. 父、子、その靈は、相互内在の方法で同時同存します。すなわち、父、子、その靈は、互いに相互に内住しています——ヨハネ14:10-11, 26。
2. 父は子の中に、その靈の中に存在し、子は父の中に、その靈の中に存在し、その靈は父の中に、子の中に存在しています。この神格の三の間の相互の内住は、相互内在です——10-11, 20, 26節。
3. 父、子、その靈は、同時同存するだけでなく、相互内在しています。神聖な三一の三者は、ひとりの神として永遠に同時同存し、相互内在しています。

II. クリスチャン生活は、相互内在の生活です——15:4-5, ガラテヤ2:20, コロサイ1:2, 17:

- A. 主が復活した日、弟子たちは主が父の中におり、また彼らが主の中におり、主が彼らの中にいることを知るべきでした——ヨハネ14:20。
- B. クリスチャン生活は、二つのパーソンが共に生きる生活です——ガラテヤ2:20。
- C. わたしたちはキリストと同時同存するだけでなく、彼の中で相互内在しています。わたしたちはキリストと共に相互内在の生活をします——コロサイ1:2, 17, ヨハネ14:20。
- D. わたしたちのキリストとの関係についての正しい観念は、相互内在です——15:4-5:
 1. わたしたちのキリストとの有機的な結合は、相互内在、相互の住み合いです——4-5節。
 2. キリストはわたしたちの中に生きており、わたしたちは彼の中に生きます——ガラテヤ2:20。

3. キリストにある神は再生を通して（ヨハネ1:12-13. 3:6）、ご自身をわたしたちの中に置き（コロサイ1:27. ローマ8:10）、それからわたしたちはバプテスマを通して（ローマ6:3. ガラテヤ3:27. マタイ28:19）、キリストの中へと置かれました。

E. 三一の神の中で生きること、また三一の神にわたしたちの中で生きていただくことは、宇宙における最大の祝福です——19節. エペソ3:14-17。

Ⅲ. わたしたちはクリスチャンとして、ミングリングされた霊の中で接ぎ木された命を生きる
とき、父の家の中で相互内在の生活を生きます—— I コリント6:17. ヨハネ14:1-6, 20 :

A. ヨハネ第14章の中心思想は、わたしたちが神の中へと信じ、それによって神の中へと入ることです—— 1 節 :

1. 神を信じることは客観的ですが、神の中へと信じることは主観的です。わたしたちを神の中へともたすことは主観的に信じることです。
2. 主の中へと信じることによって、わたしたちは彼の中へと入って、彼と一になり、彼にあずかり、彼がわたしたちのために達成したすべてのことにあずかります——3:15。

B. ヨハネ第14章1節から6節で、わたしたちはイエスが死を経過し、キリストが復活の中で来て、わたしたち信者を父の中へともたしたことを見ます :

1. 主イエスは生けるパーソンである父ご自身へ行きました——12, 28節。
2. 主は父へ行きましたが、主の意図は彼の弟子たちを父の神聖なパーソンの中へともたすことでした——5-6, 12, 20節 :
 - a. 主は肉体と成ることによって父から来て、神を人の中へともたし、また彼は父へ行きましたが、それは人を神の中へともたすためでした——1:14. 14:20。
 - b. 彼が行った方法は死と復活によってであり、彼が行った目的は人を父の中へともたすことでした—— 6 節。
3. 2節の「行く」という言葉は、主が死と復活を経過して、人を神の中へともたし、神の住まいを建造することを意味します。これはマタイ第16章18節で述べられている召会を建造することです。
4. キリストは死んで、わたしたちが神の中へと入り、また神がわたしたちの中へと入るための道を備えました——ヨハネ14:6, 20。

C. ヨハネ第14章2節の「わたしの父の家」は、地上における神の住まい、すなわち宮を指します。宮はイエスの肉体の予表、象徴であり、それは復活の中で拡大されて、キリストのからだとなりました——19-22節 :

1. 第2章16節の「わたしの父の家」は、地上における神の住まいである宮を指します。宮はイエスの体の予表、象徴であり、復活の中で拡大されて、キリストのからだとなりました——19-22節。
2. 第14章2節の「わたしの父の家」は天を指すのではなく、地上における神の住まい、すなわち、キリストのからだである召会を指します。
3. キリストのからだは召会であり、召会が神の家であるという啓示は、書簡において十分に発展しています—— I テモテ3:15-16. I ペテロ2:5. エペソ2:21-22。
4. ヨハネによる福音書において、また新約全体において、父の家はキリストのからだ

であり、それは地上における神の住まいである召会です——エペソ1:22-23, 2:21-22, 2:15-16。

D. 父の家には多くの住まいがあります——ヨハネ14:2:

1. 多くの住まいとは、キリストのからだの多くの肢体であり、それは神の宮です——ローマ12:5, Iコリント3:16-17。
2. キリストにあるすべての信者は神の建造、すなわち父の家における住まいです。この建造はキリストのからだであり、すべての住まいはキリストのからだの肢体です——エペソ1:22-23, 2:21-22, 5:30, Iコリント12:27。

E. 「わたしは……あなたがたのために場所を用意しに行く」とは、わたしたちが神の中へと入るために、主が場所を用意し、贖いを達成し、道を開き、立場を作ることを意味します——ヨハネ14:2-3, 6:

1. 主イエスはわたしたちが神の中へともたらされるために、死と復活によって、道を開き、場所を用意しました——20節。
2. 彼は彼の死と復活によって、わたしたちのために神の御前で、神の中に立場を備えました。このようにして、彼はわたしたちのために神の中に場所を用意したのです——2-3, 6節。
3. 神の中の立場は拡大されて、キリストのからだの中の立場となりました——ローマ12:4-5, エペソ5:30, Iコリント12:27。
4. キリストにある信者として、わたしたちはみな神の中に場所を持ち、またからだの中に場所を持っています。そして、今わたしたちはキリストの死と復活を通して、わたしたちのために用意された場所で相互内在の生活を生きるべきです——ヨハネ14:2-3, 20, Iコリント12:27。